第51回

日本の大学病院における がん患者の退院支援に対する 満足度に関連する要因： がん患者の遺族への 横断的アンケート調査

Ishimoto H, Ikeda T, Kadooka Y.
Factors related to satisfaction of cancer patients with transfer arrangements made by university hospitals at the end-of-life in Japan: a cross-sectional questionnaire survey of bereaved family members.
Supportive Care in Cancer.2021；29（6）：3091-3101.

医療技術の進歩により長く入院する必要がない治療法が増えたことや，政府による医療費適正化政策の影響で，在院日数の短縮化が進み，その動きは今も継続しています。そのため，急性期病院に勤務する皆様は，退院支援に力を入れていらっしゃるかと思います。

退院した後も患者と家族が安心して過ごせるようにするためには，患者の現在の状態だけでなく，入院前の生活や家族のサポート態勢なども踏まえて今後必要となる支援を予測することが必要になります。日々の看護に加え，多くの視点で情報を収集し，考える必要があり，何を優先すればよいのか，どのタイミングで誰と情報共有や相談をしていけばよいのか，分からなくなることも多いことでしょう。また，退院支援を担当した患者が在宅療養に移行したり，地元の病院に転院したりした後，「退院調整はあれでよかったのだろうか」「足りないことはなかったか」と

気になることもあるかと思います。

そこで今回は，大学病院から退院したがん患者の退院支援に対する満足度に関連する要因を調べた研究を紹介します。この研究では，退院後半年から５年以内に亡くなったがん患者の遺族400人を対象として，横断的にWebアンケート調査が行われました。

患者は約70％が70歳以上の男性でした。次の療養場所は，自宅が約35％，一般病棟，ホスピス・緩和ケア病棟が約30％ずつ，ほかは長期療養型施設でした。回答者は21～69歳で，約60％は患者の子どもで男性でした。

調査の結果，60％以上の遺族が「患者は大学病院での退院支援に満足していた」「退院時に療養場所の変更について納得していた」と回答しました。

「大学病院の退院支援に関する満足度」に関連する要因について２つの項目の関係性の強さを−１から＋１の間の値で表した相関係数という数を用いて調べたところ，次の４項目が特に関連が強いことが分かりました。

①退院についての説明の内容に満足していたか

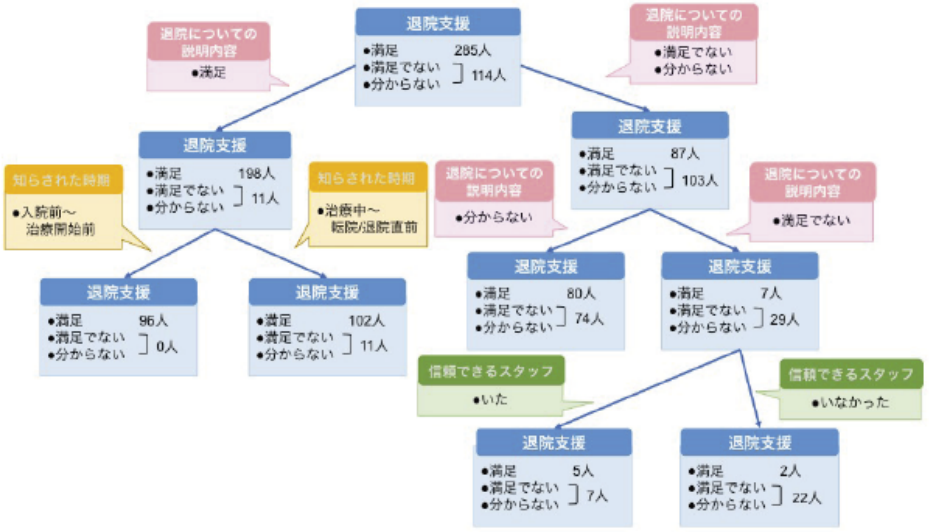
②退院時に療養場所の変更について納得していたか

③日常の全体的なケアに満足していたか

④退院準備の進捗を知らされていたか

また，退院支援への満足度の回答結果を「満足」「満足でない」「分からない」の３つの群に分けて決定木分析（関連の強い項目から順に枝分かれさせ，ツリー状に表す分析方法）を行った結果を**図１**に示します。

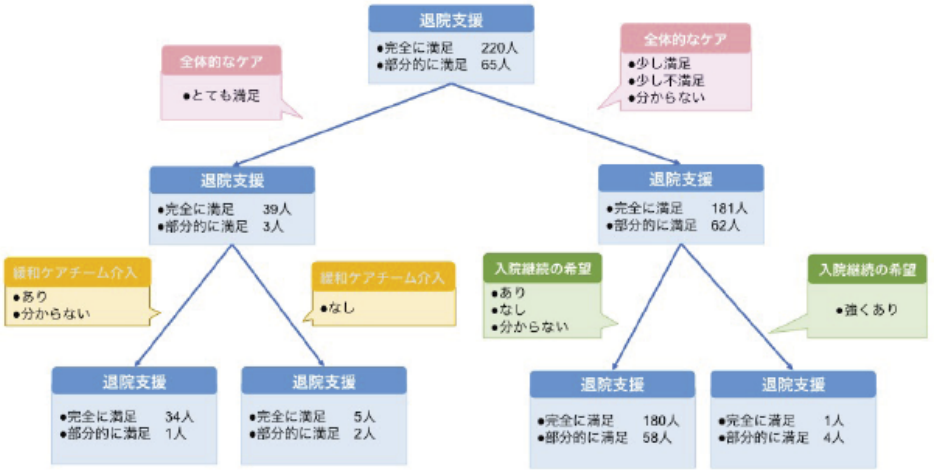
図1　退院支援の満足度の決定木分析



退院支援についての満足度と最も強く関連していたのは，ここでも「退院についての説明の内容に満足していたか」でした。２番目に強く関連していたのは，「転院・退院について知らされるタイミング」でした。そして，「退院についての説明の内容に満足でない」群で３番目に強く関連していたのは，「信頼できるスタッフがいたか」でした。

さらに，退院支援に「完全に満足」「部分的に満足」の２つの群に着目し，決定木分析を行った結果を**図２**に示します。

図２　退院支援に「完全に満足」「部分的に満足」の決定木分析



最も強く関連していたのは「日常の全体的なケアに満足していたか」でした。そして，２番目に関連していたのは，「緩和ケアチームが介入していたか」「入院継続の強い希望があったか」でした。

以上の結果から，退院支援が患者にとってより納得できるものになるかどうかは，特に退院についての説明の内容が関係しているということが分かりました。今回は，退院についての具体的な説明の内容については検討されていません。しかし，患者がより納得できる退院支援を行うためには，退院準備のプロセスの中で患者も進捗状況を知ることができるように情報共有しておくことが大切だと考えられます。そうすることで，患者が今後の治療や療養生活についての希望や気になることを話すチャンスが増え，その都度疑問点を解決したり希望を反映させたりしながら退院準備を進めることができるからです。

そして，今後の治療や療養場所についての見通しは，できるだけ早く患者と共有しておくことで，患者が予想外だと感じることを減らし，転院・退院に向けて心の準備を整えてもらうことができるのだと思います。

また，必要な時は緩和ケアチームに介入してもらいながら患者のニーズに沿った看護ケアを行うことが，患者のその時のつらさを和らげるだけでなく，より満足できる退院支援にもつながっていることが分かりました。患者が退院後に困り事なく生活できるかどうかとはまた別のことですが，日頃の看護ケアがより良い退院支援にもつながるということは，私たちの励みになるのではないでしょうか。

たかはしみき：2015年東北大学医学部保健学科看護学専攻卒業。その後，国立がん研究センター東病院に入職し，消化器内科・外科病棟で看護師として勤務。2021年より東北大学大学院医学系研究科医科学専攻緩和医療学分野修士課程へ進学。

みやしたみつのり：1994年３月東京大学医学部保健学科卒業，臨床を経験した後，東京大学大学院医学系研

究科健康科学・看護学専攻助手・講師を経て，2009年10月東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア
看護学分野教授。専門は緩和ケアの質の評価。

この商品の内容に関するお問い合わせは仙台事務所
お急ぎの場合は、TEL（022）261-7660におかけください。
※土・日・祝は対応しておりません。

ご注文に関する内容・変更・追加などのお問い合わせは、
お客様センターフリーダイヤル0120-057671に
おかけください。

※本サービスは事情により予告なく終了することがございます。
あらかじめご了承ください。

ページトップに戻る

Copyright© nissoken. All Rights Reserved.
お客様センターフリーダイヤル 0120-057671